

<p>1 観光コンテンツ創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 通年資源開発 箕面観光の年間を通じた観光客の増加にむけて、年間を通じた観光資源および観光コンテンツ開発を行います。 ◎ 事業連携による新しい観光コンテンツの創出 箕面市が有する様々な分野の強みを活かしたコンテンツ開発を行います。市内の魅力資源を集約、組み合わせることでより魅力の高い観光コンテンツを創出します。 ◎ 夜間観光資源の開発 インバウンド対策とともに、箕面市の新しい魅力づくりとして夜間観光コンテンツを開発します。
<p>2 二次交通を利用した回遊ルートの整備・開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 二次交通を活用した回遊ルートの検討 観光名所を二次交通で繋ぐ新たなルートの検討・開発を行います。地域での滞在時間の拡大と、地域での消費拡大を図るとともに、マイカー総量抑制と交通渋滞の解消を図ります。
<p>3 箕面公園周辺のブランディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 箕面公園周辺のブランディングの検討 「地域のイメージの向上」と「地域の特性を活かし、地域の魅力を伝えることのできる地域資源の充実」を進め、車の両輪として相乗効果を発揮させながら、地域が有する魅力を効果的に発信していくために箕面公園周辺のブランディングについて検討を行います。 ■ 箕面の豊かな自然を保全する基金の創設 箕面の豊かな自然を大事にしていきたいという思いを地域で共有、相互の理解を深めていくために、新たな基金の創設を箕面市民に広げていきます。
<p>4 観光受入れ体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ インバウンド対策 外国人観光客に向けた、観光をよりストレスなく過ごしてもらええる施策を行うことでホスピタリティの充実を図ります。 ■ 観光遊休施設の再活用、後継者課題への取組み 観光遊休地・施設の活性化を図るとともに、後継者課題についての取組の強化を検討します。 ■ 観光人材の育成 地域観光やふるさとへの理解促進、地域教育による社会課題の解決能力などの形成を目的に、観光人材の育成を行います。 ◎ 観光人材の育成（地域の教育期間との連携/ボランティア育成等） 産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業を行うことで、観光産業の経営力強化や生産性向上をめざします。 ◎ 箕面検定の新しい展開（裾野の拡大施策） 箕面の魅力を再発見する機会として展開している箕面検定の拡充を検討します。
<p>5 情報プラットフォーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観光情報プラットフォームの構築 箕面市の様々な観光関連情報を収集・蓄積し、地域の魅力的な資産に関する情報を整理した上で、「旅行者が自らニーズにあわせた情報を見つけるためのシステム」「付加価値の高い地域ツーリズムを開発・販売するためのシステム及びサービス」等を構築し、情報発信していくための情報プラットフォームの整備・構築を図ります。

発行日 令和5年（2023年）2月
 発行/編集 箕面市観光協会 〒562-0001 大阪府箕面市箕面1-1-1（箕面 交通・観光案内所内）
 TEL 072-723-1885 / FAX 072-721-1788
 HP <https://minohkankou.net>

※観光戦略の本編については、箕面市観光協会のホームページをご覧ください。

箕面観光戦略 概要版

令和5年（2023年）度～令和9年（2027年）度

観光戦略の目的

国による観光振興の重点化、観光ニーズの変化、ライフスタイルの多様化などの外部変化が顕在化し、少子・高齢化の進行や産業構造の変化など観光を取り巻く環境や社会情勢が大きく変化しています。このような時代において、地域に誇りと愛着を持ち、活力を取り戻すためにも観光振興の取組みは大きな役割を担っています。本戦略では、大いなる箕面観光の復活にむけて、地域の宝に光をあて、磨き、次世代に誇れる持続可能な観光振興を官民一体で進め、市内外の多くの人々から選ばれる地域となることをめざします。

箕面市の現状と課題

〈箕面市における観光の現状（観光客の動向）〉

明治の森箕面国定公園利用者数

明治の森箕面国定公園の利用者数は昭和50年（1975年）をピークに、減少傾向にあり、令和2年（2020年）にはほぼ半減しています。

来訪交通手段

旅行社等によると、箕面にかかるツアー造成が非常に少ないことから、自家用車・電車利用による日帰り客かつ個人客が多いのが現状です。

宿泊客の客層

本市の宿泊客を居住地都道府県別に見ると、大阪府内が約半分、兵庫県、京都府と続き、府内を含む近畿圏からのファミリー層が多い状況です。

〈WEBアンケートからみる箕面観光の課題〉

観光客交通手段

来訪者の半数が自家用車、約4割が電車。観光スポットが分散しており市内移動（二次交通）の充実が必要です。

情報発信

「もみじの天ぷら」「箕面ビール」以外の特産品の認知度が低く、観光情報の積極的な発信が必要です。

観光消費額

8割弱が5,000円以下。観光消費拡大に向けてグルメ、おみやげ、施設の充実に加え、滞在時間の延長施策が必要で。

体験観光

「屋外スポーツ」「ウェルネスツーリズム」に対する興味が高い。箕面の自然を生かしたツーリズム開発が必要です。

観光振興のあるべき姿（目標）

箕面を好きになってくれる人を増やす！

目標1

年間を通して楽しめる箕面の魅力を求め、多くの観光客が来訪します。

目標2

観光客はまちを回遊し、食事や買い物しながら、終日箕面観光を満喫します。

目標3

共に誘い合って来訪。特に若い人や子どもたちの元気な声が響きわたります。

箕面に住む人が増え、特に子どもが多いまちとして全国に広く知られます。

箕面に住みつけることに誇りを持つ人

定住人口の拡大

箕面で働く、学ぶ、遊ぶ、楽しむ人

交流人口の拡大

箕面でモノを買う人、SNS等でつながる人

関係人口の拡大

戦略策定の視点

地域を取り巻く急激な社会構造の変化や時代潮流の中で、
活力あふれる地域として持続的に発展していくためには、
市内外の多くの人々から選ばれる“地域（都市）としての優位性の創出”が求められます。

Sustainable Tourism

持続可能な観光に即した地域の新たな物語づくり

地域の「環境」を守り・育む

地域の「文化」を守り・育む

地域の「経済」を守り・育む

持続可能な観光に即した地域の“ウリ”づくりと“情報発信”することで、
地域のプレゼンスの向上を図ります。

基本方針（基本戦略）

地域資源にさらに磨きをかけた魅力的なコンテンツ開発

1 年間を通じた観光メニューとブランディング開発

豊かな自然をはじめとする豊富な観光資源を活用した体験型観光の開発とともに、それら自然をはじめとする観光資源の保全を念頭に置いた持続可能な観光開発の推進を図ります。

2 二次交通を活用した回遊ルートの整備・開発

箕面の観光資源や事業者・団体が独自で実施しているイベント催事を効果的に結び、箕面市の魅力を体験・体感していただくために回遊ルートの整備・開発を行います。

3 インバウンドにも対応した話題性の高いコア事業の開発

箕面の立地優位性を生かしたインバウンド対応メニューを開発する他、多言語化サイン計画を含むゾーンデザインの整備でホスピタリティの充実を目指します。

観光コンテンツの下支え

コンテンツを活かす基盤整備

4 箕面観光の情報プラットフォームの構築

情報プラットフォームは、各事業者・団体が予定しているイベント・催事等を事前に集約することで、最大の効果を得る加工発信を行います。

5 シビックプライドの構築で市民と一体となる観光ムーブメントの醸成

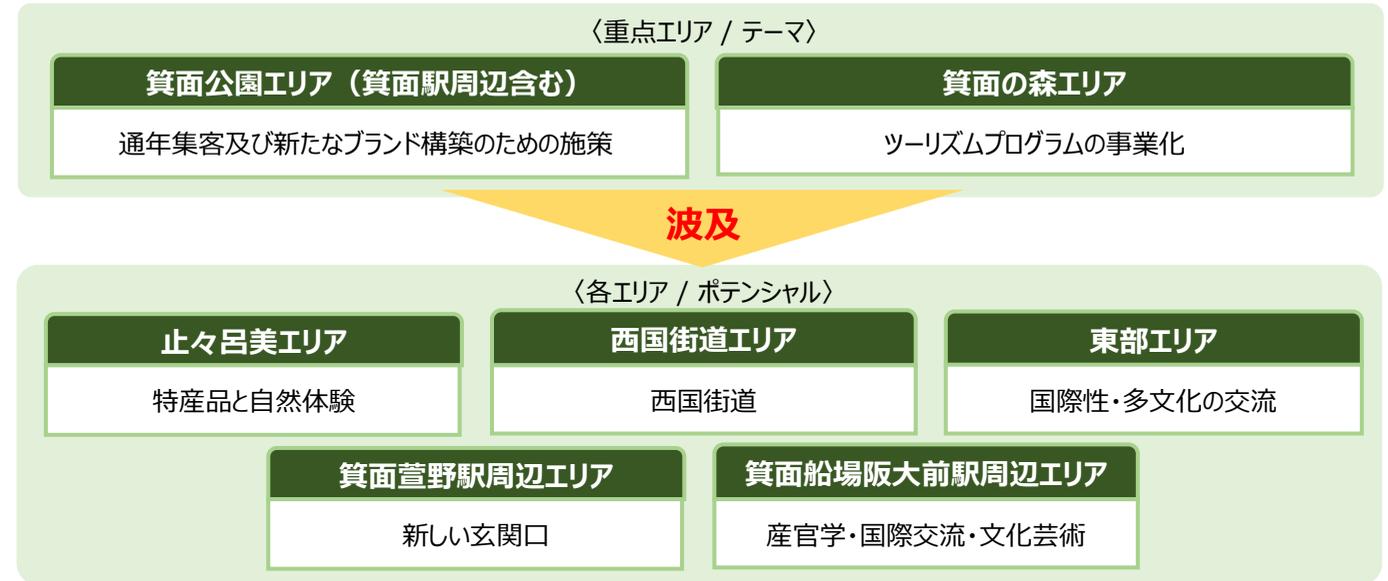
観光と箕面市民が一体となるムーブメントを醸成させることで、観光ホスピタリティのみならず、新規事業の参画や、後継者対策、また、企業や団体の理解や賛同に繋がります。

6 観光DXの対応

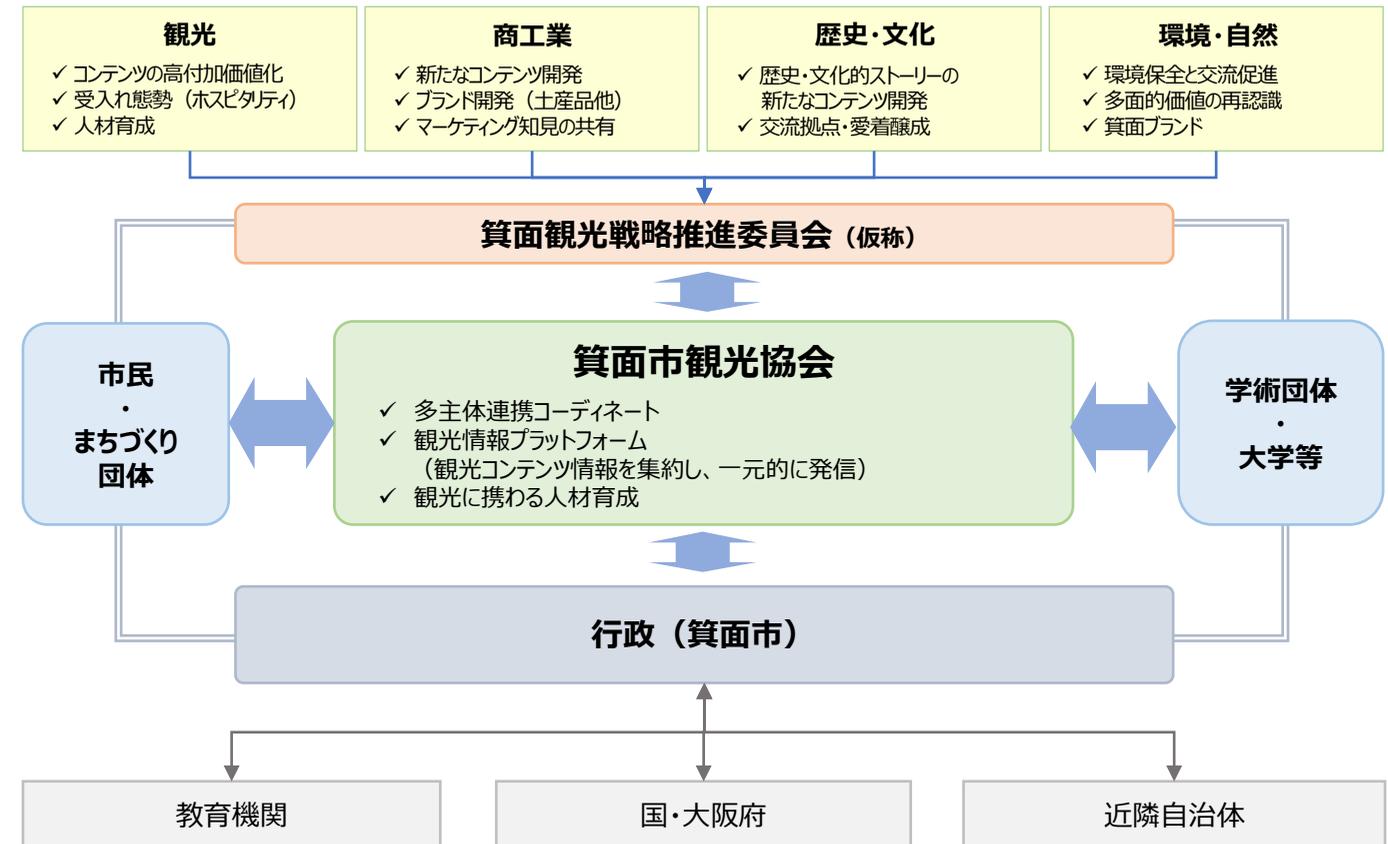
デジタル技術やICTを導入し、利用することで、観光資源と技術の融合による相乗効果を生み出し、新しい地域観光モデルを構築します。これまでにない観光コンテンツの創出と観光価値の向上をめざします。

観光ブロックエリアでの戦略

箕面市の観光戦略を検討する場合、それぞれのエリア特性に基づく、戦略を検討する必要があります。
箕面市に於いて、地域が歩んできた歴史や地理的条件などの特性から、5つのエリア（地域）と、北大阪急行線が延伸され誕生する新駅（2駅）の2つのエリアの7つのエリアに分類しました。



事業の推進体制



事業評価と効果検証

本戦略を計画的・効果的に推進していくために、数値目標を設定することで5年間の目指すべき姿（目標）とします。
数値目標をもとに、進捗状況を把握することで、観光振興全般における戦略推進の成果を評価し、次期戦略策定の際に見直しを図ります。